

ログハウスは自分で建てよう（その2）

3．特設道路ついに完成

2月7日 今回は一泊の作業。朝6時練馬駅で5名全員揃った。石井さんは5時出発での参加、出発前からお疲れ様。

朝早いので高速道路も順調に走る、何時もの様に市原PAでトイレ休憩、朝日に向かったのドライブは結構眩しい。

9時一寸前保田に到着、斎藤さんが待っていてくれた。一休みしてから作業に着手。本日の予定では、道路を完成させることと建設箇所に「水系張り」その他である。道路用地は出来たが、ふわふわで軽4輪ダンプでもなかなか走りづらい。そこで大奮発して、路盤材に砕石10？（RC20～0・3000円）を購入、パイプロプレートを建材屋から借用して本格的な？道普請（借用のお礼はちゃんとしましたよ）。石井さんはパイプロプレートで路盤転圧に専念してくれた。後で手がしびれてしまったとの事、ご苦労さんでした。

今回の道路建設は、ハウス建設にはどうしても道路が必要で、軽4輪ダンプ・軽4輪車等が使える道路でなければならないとの条件でした。そのため路盤材（節約のため平均5～7cmと薄い）だけでは雨などですぐ崩れる恐れがあるので、その上にセメントの粉を全面散布（セメントを篩に入れ手で少しずつ揺すって撒く）することにした。これは専門用語でセメント処理路盤と言う？後で雨・露・土の水分で固まってくれることを信じる。この作業も結構きつく石井作業員はへとへと体と見受けた。機械力と人力の差をまじまじと見せつけられた作業でした。

その間、鶴田さんはトイレの材料を上洗心庵から何回も下ろしてくれていました。前回の役員会でトイレの位置はハウスの左側と蜂谷さんが主張されていましたが、現地を見た中で右奥が最適であると決定した。また蜂谷さんはログハウス建設場所の水系張りに精を出していました。優秀作品「洗心庵」製作時の棟梁の技量を充分発揮させています。

前回同様今夜も「番屋の湯」で身を清め（蜂谷氏は体調不良につきパス、お大事に）夜の宴会は例によって保田鍋+斎藤氏からの差し入れてくれた「おでん」が中心。適当に飲んで食って眠くなった人からご就寝。

明けて8日 日曜日。道路工事の残りど、景観改善の為の伐採。ところが今日は町会（ここでは区会）の「環境美化の日」で当方のチェーンソーと地元のチェーンソーの競演となった。刃を取り替えた当方のチェーンは大型の物に負けじと活躍、大木をバリバリ倒していった。

特設搬入道路「テル新道（勝手に命名）」も完成しハウス用地から遥かに明峰富士を

望み、仮称第二洗心庵に夢を託す。今回の作業はここでお仕舞い。砕石・セメント・工具のお礼で 37,900 円の出費、安く上がったように思う。これから斎藤氏お手製の「ひき肉の混ぜご飯」をご馳走になる。

4 . NRC 流基礎工事完成

2月21日 平和台ジョナサンにて、軟弱地盤に置く基礎について検討会が行われた。「洗心庵」は時間と共に地盤が動き今回は絶対動かない様にするにはどうしたら良いかとの検討となった。蜂谷氏が知人の大工さんから聞いた意見を参考にし、各基礎に短管パイプを 1~4 本打ち込みコンクリで固めることにした。また その上に空の一斗缶を被せてコンクリを流し込めば、問題なく強固な基礎が出来ると結論が出た。

2月28日 今回は6名(田口・石井・鶴田・蜂谷・柴木・結城)+1名(用地の整地及び短管パイプ打ち込み用のバックホー)で快晴の保田にむかった。蜂谷さんを中心に基礎の短管パイプの打ち込み準備にかかる。盛り土部分は2~4本、切り土部分でも1~2本と磐石の基礎になる予定だ。またその後に使用する鉄筋の準備も平行して行われる。明日にかけて使用する骨材(セメント15袋・砕石1立方m・砂1立方m計25,000円)を購入。

9時バックホーが到着。正確に測定された基礎の位置に、バックホーの爪で短管パイプが打ち込まれていく。ズブズブ入ってしまう所となかなか入らないところがあり、予定以上に余ったパイプを電動カッターで切断するのもこれまた大変。石井・田口氏が奮戦。

機械力の凄さを充分に知らされた一同は、バックホーを取り合いとなってしまった。まず 用地海側傾斜地の土止め用パイプの打ち込み、バケットを目一杯伸ばして6本打ち込んだ。次に用地右上段部の整地、加えてこれからの事を考えた 炭焼き釜用穴掘り、そこまでの道路造り、道路に支障となる灌木の大きな根っこの撤去、トイレ用地の整地と吸い込み穴の掘削と盛沢山。オペの休む暇さえありません。

石井氏は文化財墓石の横の大木撤去に挑戦、ロープと軽ダンプで引き倒したが、スライド梯子損傷の被害、人間でなくて良かった。

雲が厚く掛かって来た。天気予報は今夜に掛けてあまり良くない。バックホーと石井氏はこれで帰る。おつかれさま。

何時ものように「保田鍋」の準備をして「番屋の湯」へ、今回も蜂谷氏はパス。今夜も斎藤氏から「もつ鍋」の差し入れ、うまい?一寸食べすぎになってしまったか。

夜 大風と雨でテントが飛ばされはしないかと、ヒヤヒヤしながら高いびきをかいて一晩を過ごした。

夜が明けても雨はまだ降り続いていて、今日の仕事が気になる。でも天気予報では10時頃には上がりそうなので、小降りの間に朝食。

「基礎」を中心に作業を開始。砕石を入れてから捨てコンとの打合せであったが、何時の間にか砕石無しとなった。場所によっては、捨てコンと配筋が同時になったり、多数の人でやる難しさが出た。次回からは仕事前にミーティングをして皆の意思統一を図る必要がある。

13時30分終了の予定が足並みが揃わず、後片付けまで終ったのは14時30分を過ぎてしまった。斎藤さん宅でまた昼食をご馳走になる、最近この「お昼」がとても楽しみ、心の何処かであてにしているとすれば不謹慎かな。今日は「菜の花の混ぜご飯と吸い物」遠足の弁当気分、また食べ過ぎの体。

* 菜の花の混ぜご飯の作り方 *

咲いた「菜の花」の花を冷凍して取っておく。出来上がったご飯に振り掛けて食べると、とても綺麗で目を楽しませてくれる。一度お試しあれ！

またまた、大量にお土産を頂いた。「お花」は我が家で数週間咲き誇っていた。「菜花」は新鮮で味噌汁・茹でて・和えて等何しても旨い。最近嗜好が変わったのか「勝手に取った八朔」を帰ってからぱくぱく、家の者があきれくらい、これも新鮮瑞々しい。心残りは数々あれど、今回の作業はこれでお仕舞い。いつもの様にドライバー鶴田さんに一身を預けて帰還。いつもお世話になります。

* 3月2日 NRC 定例役員会の後、これからの工程、準備する物、不足している物、追加する物、未確認事項等など、打ち合わせをした。特に着手前にミーティングを行い参加者の意思統一を図る必要があるとした。

5 . NRC 流基礎工事完成（その2）

3月13日 今まで最高の7名の参加者（田口・石井・鶴田・柴木・結城と前夜から車中泊の米山・蜂谷）を得ての作業となった。

今回の作業は、特製基礎を完成させ、次回のログ材搬入に間に合わせる事にある。全員で着工前のミーティングを行う。簡単にプリントされたメモでの、作業分担も確認され一斉に着手した。

基礎でのコンクリ打ちは、寸法に合わせた羽子板ボルト取り付けが予想以上に大変で、みんなで何回も測定しながらの作業となった。前回同様蜂谷氏が中心になり、米山・石井氏が担当した。特に基礎の中に4箇所図面でいうと2箇所分を一体化したのがあり、一斗缶の中に割り板を入れ、コンクリを流し込んだ。しかし段にするには、下の段が乾いてから上の段までコンクリを流すこととした。正確性を求められる作業なので、皆神経を使っていた。

一方鶴田氏は、このキャンプ場にはなくてはならないトイレ作りに取り組んでいる。「吸い込み穴」は多少雑でも良いが、本体はしっかりしておかないといけないので、ログハウスの基礎同様短管パイプ打ちの基礎となっている。

あとの田口・柴木氏はと言うと、またまた重労働。すなはち「土嚢積み」の作業。水仙畑からログハウス台までの階段づくりとその上の仮設テント台までの階段づくり。この階段が出来れば。多少の悪天候でも動き易くなる。“田柴階段”の早期完成を祈る。完成して分かったことだが、この階段どうしてか途中でタタラを踏まないと登れない。気付いた人が何人か居たようだけど、大勢に影響は無い。今までの事を考えると天国の様。それからもう一つ、海側斜面の崩れ防止兼ハウス用地拡大策の土嚢積み。ほぼ垂直に積み上げると6~70cm用地が広がる。出来上がれば大きな成果となる。今回はもう一つ追加作業が予定されていた。蜂谷氏より一寸古いがスチール製の小型物置2台提供された。さすが本職、きれいに塗装されていて新品同様（一寸言い過ぎか）とても便利に使いそう。いままではテントの中かシートに包んで帰ってきたが、工具とか小さい材料とか鍋釜などは安心して置いてこれる。でも組み立てている田口・柴木氏コンビは部品を合わせるのにかなり苦労をしていた。ご苦労さん。

基礎工事はベースコンまで終了し、一日目の仕事とした。これから鴨川まで足を伸ばし明日以降の不足部品を購入する。羽子板ボルト14本と多少ズレがあってもアジャストする発泡スチロール管、ログ組み立てに使う接着材、水盛り用ビニール管、トイレ排水用VP継ぎ手など等。かなり広いホームセンターなので時間のたつのを忘れそう。

夕方 斎藤氏に話もしないで鴨川に約3時間も行ったため、大変心配をかけた。一寸話をしておけばよかったのに、常識を欠いた行動だと全員で反省。

今夜も豪華な食卓、バラエティに富んだつまみ、名物「保田鍋」を中心にビール・酒・焼酎・梅酒など飲みきれない（影の声 にも全部飲まなくても良いのに）。東京ではまだ宵の口だが、眠くなった人から夢の世界へ。おやすみ。（米さんは又車中泊、かえって疲れなかな、どうしてだろう？エヘヘ・・・）

3月14日（日） 快晴 明峰富士は春霞で見えない。朝のミーティング、13時迄で今日の仕事は終わりにする事で全員一斉に作業開始。9時を過ぎていた、のんびりしていたせいだ。鶴田氏は朝飯前に上に下に重量物の運搬をこなしていた。

基礎にコンクリ打ちが中心なのだが、力仕事の連続だ。材料屋さんから借りたコンクリを混ぜるスクリュウ（マゼラーと言うそう）とドラム缶の半分にした容器が活躍。一部コンクリが一斗管に入った羽子板ボルトが内側に入っているのを発見、やはり後工程で「根太受け」を削るより、可能な限り現工程で対応することとし、まだ動く羽子板を移動した。しかし固まりかけている2本についてはそのまま。

瞬く間に12時を過ぎて行く。米山氏の帰る時間になってしまった。2日間とも車中生活お疲れさん、これに懲りずにぜひまたお願いします。

今回目的の特製基礎作りは細かい処を除き完了。全体の工程も予定どうりとなっている（と言うより、参加者がそれに合わせてやっていると言った方が正解）。

例によって斎藤氏宅で遅い昼食を楽しむ。小生は一寸した都合で何もしていないけど、腹だけは一人前に減る。食べる時だけ人一倍？皆さんに申し訳ない。次回に思いを残

して！

6．ログハウスの名称「洗心亭」と決定

仮称「第二洗心庵」としていたログハウスの名称について、役員会後ほか会合の度に話が出ていたが、決定にまで至らなかった。また従来の「洗心庵」の“洗心”とは、レクをやる事によって心が洗われる状態になればとの思いであったため、“洗心”への拘りも抜け切れていない。

いろいろ検討を重ねた結果、題記の「洗心亭」と決定した。

「庵」とは 風流な建物に付ける名前

「亭」とは 料理屋などが付ける名前 と辞書に出ている。

どの様に解釈するかは、皆さんご随意に。

5月3日の竣工式に向って、石井書家による書を額に装丁しハウス内に掛ける予定、出来上がりにご期待下さい。ついでのことですが、5月3日の竣工式では吉野宮司に依頼して厳かに、かつユーモアを取り混ぜて厳粛に行います。家族・知人出来るだけ多くの参列者を期待しています。